

学校法人 弘徳学園

中長期計画

期間：令和 2 年度～令和 7 年度

●理念

建学の精神である「教育の目的は、人に愛される人、人に信頼される人、人に尊敬される人の育成にある」を実現する

●目標

- I 実践的教育による学生の育成
- II 質の高い研究成果の社会的還元
- III 教育資源による地域貢献、企業貢献及び国際貢献
- IV 教育・研究活動を維持する環境の整備

●基本方針

- I -1 (1) 教育の付加価値向上
- I -2 (2) キャリア教育の充実
- II -1 (3) 特色ある研究によるプレゼンスアップ
- III -1 (4) 地域の知的・実践的拠点として発信力向上
- III -2 (5) グローバル人材の育成
- IV -1 (6) 効果的な広報活動による入学志願者の増加
- IV -2 (7) 財政基盤の安定化とガバナンスの強化

●主要対策

1-1 教育力の向上

2-1 社会人力の向上

3-1 外部資金による研究の充実

4-1 教育・研究の地域への発信

5-1 語学力の向上

6-1 広報活動の質向上

7-1 収入増加と管理経費抑制

1-2 教育効果の可視化

2-2 専門職への就職率向上

3-2 研究成果の向上

4-2 自治体、企業等との連携強化

5-2 国際交流の推進・強化

6-2 入試制度改革

7-2 組織改革と基幹人材育成

○個別対策管理シート

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	担当部局						令和2年度成果	令和3年度成果
農学部設置構想	R2	R3	R4	R5	R6	R7	1.姫路大学畜産研究所の開設準備 2.実験地として実験センターの設置準備 3.預託契約の準備 4.本学が研究開発活動を行うための研究素材・研究対象物の保有・管理業務等を行うための法人(株式会社姫大アシスト)設立準備 5.新学部設置にむけた分野研究の推進 6.千葉大学との共同研究に向けた準備	1.姫路大学畜産研究所の設立 ①規程制定②要員の配置③研究所設立(本所 本学内、小代地区、夢前・丹波地区④研究所看板設置 2.姫路大学動物実験倫理審査委員会の設置 ①規程制定②倫理審査委員選任(内部＋外部)③倫理審査委員会開催 3.預託契約の締結 4.子牛購入・販売方法の協議 5.研究開発計画の策定 ①第一実験(千葉大/姫路大)宮崎チーム ②第二実験(姫路大) 6.パンフレットの作成 7.美味しい牛肉と健康を考える牛肉セラピー協議会の設立検討 8.設立記念フォーラムの開催検討 9.研究事業推進委員会(アドバイザリーボード)の設置検討 10.農学部設置にむけた分野研究の推進
	農学部設置準備室						1.姫路大学畜産研究所の開設準備を進め、令和3年4月開設の目途がついた 2.小代地区、夢前地区において、実験地として実験センターの設置準備をすすめ、交渉を進めている 3.預託契約は上記2の二社との交渉中である 4.本学が研究開発活動を行うための研究素材・研究対象物の保有・管理業務等を行うための法人(株式会社姫大アシスト)を設立手続きが完了した 5.新学部設置にむけた分野研究のため、姫路の”盆栽しらさぎ園”を訪問した 6.千葉大学との共同研究契約締結に向け、先方との事務を進めている	
通信制高等学校設置構想	R2	R3	R4				1.通信制高等学校設置に関して申請の可否の確認 2.通信制高等学校設置場所の選定 3.通信制高等学校設置申請準備	1.通信制高等学校候補地地元自治体への申請 2.通信制高等学校設置申請 3.寄附行為変更認可申請
	通信制高等学校設置準備室						1.通信制高等学校設置申請に関して可能との確認済 2.通信制高等学校設置場所の候補地の選定終了 3.通信制高等学校申請書類作成着手	

姫路大学

中長期計画

○個別対策管理シート

Ⅰ 基本方針

Ⅰ-1 教育の付加価値向上

Ⅱ 主要対策

1-1 教育力の向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部署								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
学部教員の教育・研究業績の向上により研究科が担当できる研究指導教員の養成	R2	R3	R4	R5	R6	R7	・研究科担当教員の資格基準を定め指導教員の選考を実施する ・学部教員の教育・研究業績の向上を図り研究指導教員を確保する	学部教員の教育・研究業績の向上を図り研究指導教員を確保する ・学部教員採用にあたっては研究科担当教員の資格基準に適合する教員の採用に務める
	看護学研究科①							
本年度は、前期・後期課程とも研究指導教員を確保できているが、教員の平均年齢が高く3年後の博士後期課程完成年度には教員の入れ替えが予測されるため確保が必要							・研究科担当教員の資格基準及び選考に必要な事項を「姫路大学大学院看護学研究科担当教員資格審査規程」として定めた ・この規定に基づき資格審査を実施し博士前期課程の主指導教員1名及び副指導教員2名を確保した	
多様な教育方法の導入	R2	R3	R4	R5			・授業では、効果的な教育方法の検討をする(アクティブラーニングなどの教育方法の検討・導入) ・看護の科目ごとに、学習習慣を身につける手段としての小テスト、レポート提出などを頻回に実施し、結果を評価し、学生に返却するサイクルを作る ・小グループでの学習機会を多くし、学生の発言機会を増やす方法等を検討する	学生も参加できるような双方向授業を検討する 新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い、緊急事態宣言、蔓延防止等緊急措置の状況下であっても、換算対策を十分に取った演習を実施する。対面授業の利点と、リモート授業の利点を十分に活かし、学生が主体的に勉強を行うよう課題の内容を吟味する。 シュミレーション教育などのIT教育の研修に参加 新カリキュラムによるシラバスの変更 アクティブラーニングの実施
	看護学部① (教務委員会)							
・学生も参加できるような双方向授業を検討 ・自分で考え、自己の考えを表現できる学生を育成							・新型コロナウイルス感染症のため、遠隔授業となることに伴い、事前課題、授業後の課題の提示をし、学生が主体的に学ぶように工夫している ・授業時間内に、小テストを実施 ・小グループによるグループワークはできていないが、Melly、meet内での学生の質問は対面授業時より多く見られ、タイムリーに回答することができている	
教員の教育力の向上	R2	R3	R4	R5			臨地実習にかかわる学内外のFD研修に教員を派遣し、成果を学内で発表する	学内外のFD研修に教員を派遣し、学内の教員に情報共有する 研修日を各教員が確保できるよう配慮し、教育と研究がバランスよく確保できるようにする
	看護学部② (臨地実習委員会)							
・直接臨地実習指導を行う准教授以下の教員の教育力向上のためのFD研修の実施 ・研修会などへの積極的な派遣							・例年5月に実習指導者・教員両者の実習協議会を開催し研修を行っていたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、中止となった(2021年度は5月25日に開催予定) ・研修会への参加は個人研究費に委ねられていること、また、各委員会予算は事務預かりとなっており、教員を研修に派遣するための予算はない ・看護学部での研修派遣の予算化が課題である	

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
教育課程の見直し	R2	R3	R4	R5			・文科省および厚労省が提案する新カリキュラムに向けて、基礎看護教育課程の見直しと準備を行う ・教育内容の積み上げ、特に実習では一貫性のある教育(看護過程および技術の評価)が行われているかどうかの検討を行う	新カリキュラムの申請を行う 成績評価の標準化 コモンルーブリックの作成 進級規定の作成
	看護学部③							
・教育課程検討委員会では、継続的に学生が学ぶ意欲をもてる科目となっているか、看護師取得のための専門的な科目が揃っているか、学生の理解度に応じた単位数になっているか、科目配置(進度)は適切であるか等の検討 ・各領域の実習内容の確認を行い、継続的、積み上げ式の実習形態となっているか、教育課程全科目の内容及びマトリックスに関する検討							看護教育課程検討委員会では、2022年度のカリキュラム改正に向けて、教育課程の見直し、検討を重ね、新カリキュラム申請の準備を行った	
大きく変化する教育現場の実状に対応した実践的教育の実現	R2	R3	R4	R5			「幼稚園教育要領」「小学校学習指導要領」等の改訂に対応したカリキュラムの検討を行うとともに、実践的教育のさらなる充実を目指して、教育方法の見直しを行う	「幼稚園教育要領」「小学校学習指導要領」等の改訂に対応したカリキュラムの検討をさらに行うとともに、教員に必要な資質・能力を養う実践的教育の充実を目指して、カリキュラム改訂を行う
	教育学部①							
「幼稚園教育要領」の改訂に伴う幼稚園教職課程の「領域に関する専門事項」の5領域化や「小学校学習指導要領」の改訂による「外国語」の導入など、時代の変化に対応したカリキュラムの検討							・幼稚園教職課程の「領域に関する専門事項」の5領域化に対応したカリキュラムの検討を行った ・「小学校新学習指導要領」における新しい教科「外国語(英語)」に関する科目は今年度より開始した	
高い指導力を身に付けた人材を育成するためのアクティブ・ラーニングの実現	R2	R3	R4	R5			アクティブ・ラーニングを実現させるために効果的なシラバス内容の検討を行う	新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえ、昨年度実施した遠隔授業の手法をさらに充実させ対面授業と遠隔授業を合わせたハイブリッド形式で効果的なアクティブ・ラーニングの実施を目指す
	教育学部②							
アクティブ・ラーニングを実現させるために効果的なシラバス内容及びクラスサイズの検討							・新型コロナウイルス感染拡大のため、遠隔授業を中心とし、一部対面授業を実施 ・その中でも学生との双方向型授業を可能とする学習ツールを生かしたアクティブ・ラーニングを実施した	
単位の実質化を図る措置(履修登録単位数の上限の見直し) 【第三者評価に基づく改善】		R3	R4					教育学部の教育課程検討委員会において、令和3年度には上限を50単位、令和4年度のカリキュラム変更を念頭に再度見直す
	教育改善・内部質保証会議①							
教育学部では、1年間に履修登録できる単位数の上限が56単位と高く、更にこの単位数に含まない実習単位科目が設定されていることから、実質的にはそれ以上の履修を認めている。これにより実際に上限を超えて多くの単位を履修登録する学生が相当数おり、取得希望の資格や免許に応じて各学年で必要な科目の履修モデルを示しているものの、単位の実質化を図る措置は不十分であるため、単位制の趣旨に照らして改善する。								

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
学位論文審査基準の見直し 【第三者評価に基づく改善】		R3	R4					博士後期課程の完成年度以降の令和4年度に向けて、前期課程及び後期課程の学位論文審査基準の見直しを行う
	教育改善・内部質保証会議②							
看護学研究科では、博士前期課程と博士後期課程それぞれで学位論文審査基準を定めているが、内容がほぼ同一であるため、各課程の教育方針に沿った内容に改善する								
教育能力の向上に関するFDの実施 【第三者評価に基づく改善】		R3	R4					・教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発・改善に関するFDの実施について、教育改善・内部質保証会議より提言し、支援を行う必要がある ・年度初めにFDテーマ、実施時期等の年間計画の作成について検討する
	教育改善・内部質保証会議③							
FDの実施に関して、看護学部では外部講師を招いた講演会を開催し、教育学部では「学術教育研究会」において各教員が教育研究の内容・実績に関する発表及びそれに基づく討議を行っているものの、両学部とも教員の研究力向上に係るものが多いことから、教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発・改善につなげるためのFDを適切に実施するよう改善する								

○個別対策管理シート

Ⅰ 基本方針

Ⅰ-1 教育の付加価値向上

Ⅱ 主要対策

Ⅱ-2 教育効果の可視化

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
研究指導体制の充実	R2	R3	R4	R5	R6	R7	・研究指導体制及び論文審査方法について検討評価する ・年複数回の中間発表会を開催し、質の高い論文作成に向けて支援する ・博士後期課程の完成年度に向け、認可申請に基づいた運用を実施しながら、課程全体の評価を行っていく	・研究指導体制及び論文審査方法については引き続き評価を実施し定着化を図る ・年複数回の中間発表会を開催し、質の高い論文作成に向けて支援する ・博士後期課程の完成年度に向け、認可申請に基づいた運用を実施しながら、課程全体を評価する ・博士前期・後期課程の学位論文審査基準の見直しを令和4年度以降に向け実施する
	看護学研究科①							
・博士前期課程は完成年度を迎え、授業科目や論文審査方法などの見直しを実施したことにより、継続的な評価が必要 ・博士後期課程は今年度開設したばかりであるので研究指導体制を整え充実に向けた運用が必要							・研究指導体制及び論文審査方法について評価をした結果、研究指導において副指導教員の指導強化を図る必要性があった。そのためには主指導教員との連携強化を図ることが重要である。論文審査方法については特に問題はなかった ・中間発表については、博士前期課程で1年次生1回、2年次生3回、博士後期課程では1年次生1回、2年次生1回開催し、活発な質疑応答が行われ有意義な発表会となった ・博士後期課程は、認可申請に基づいた運用を実施しているが、今年度受審した大学評価において学位論文審査基準について完成年度以降に見直す必要があることを指摘された	
看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標の達成	R2	R3	R4	R5	R6	R7	卒業予定者全員を対象に、総合的な技術チェックを行う	専門教育科目である総合看護の授業にて、卒前看護技術チェックを組み込む案を提案する 演習で学修する項目、実習で学修する項目を本学で確認し、各教員間で共有する。 演習で学修する項目に関してはシラバスに記載する
看護学部① (卒前看護技術チェック係)								
看護技術が安全に提供できるかを卒業前に確認することは社会への責任として重要であるが、現教育課程ではそれらができていないため、シュミレータを用いた技術チェックの実施が必要							・今年度は、看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書の中の看護師等養成所の運営に関するガイドライン別表13-2 ＜看護師教育の技術項目と卒業時の到達度＞(改正案)をもとに本学用の看護技術の演習項目と到達度(案)を作成した ・本資料を使用して、専門教育科目である総合看護の授業にて、卒前看護技術チェックを組み込む案を、提案していくこととした	
国家試験合格率・就職率の向上	R2	R3	R4	R5	R6	R7	・入学時に既習学力試験を実施する ・1年次から年2回国家試験模試の受験の義務化を行い、学習進度に合わせた学習の強化および試験を実施する	1年次から国家試験模試の受験の義務化を行い、学習進度に合わせた学習の強化および試験を実施する 国家試験対策を各学年で充実させ、全国平均並みの合格率を維持する
看護学部② (国家試験対策)								
AO、指定校制入試での入学生が多く、試験に不慣れな学生がいるため、1年次より模擬試験などを活用し試験回数を増やすことが必要							・入学時に既習学力試験を実施する予定であったが、解剖生理についてテストを実施して前期終わりに中間評価を行った ・1年次から3年次の模擬試験は1回を全員義務化し、学内実力テストを各学年実施した ・各学年毎に国家試験対策を毎週行ってきたが、4年生はコロナ禍となり対面での対策に制限があり、合格実績は低迷が予想される	

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
授業におけるポートフォリオの活用、授業評価の実施	R2	R3	R4	R5			・フィードバックの方法を検討する ・ポートフォリオの活用方法を検討する	・双方向型学習ツールMellyを活用し、学生の学修に対する効果的なフィードバックを行う ・Mellyにより学生がポートフォリオを生かした学修を展開する
	教育学部①							
・学生による授業評価は行われているが、学生の参加度およびフィードバックなどに課題 ・授業におけるポートフォリオの活用も一部見られるが、効果的な活用が課題							・双方向型学習ツールMellyを導入し、学生の学修に対するフィードバックを行った ・Mellyにより学生がポートフォリオを生かして学修に取り組むことが可能となった	
卒業時の質問紙調査、卒業研究のプレゼンテーションの実施	R2	R3	R4	R5			・卒業時の質問紙調査を検討する ・卒業研究のプレゼンテーションの在り方を検討する	双方向型学習ツールを利用した効果的なポートフォリオの活用および授業評価の方法を検討する
	教育学部②							
4年間の学修成果を可視化するために卒業時の質問紙調査の実施、卒業研究のプレゼンテーションなどの在り方など検討する必要							・卒業時の質問紙調査の内容の検討を行った ・卒業生全員が卒業研究についてプレゼンテーションを行い、在校生にも公開した	
教員採用試験合格率の向上	R2	R3	R4	R5			教員採用試験対策講座を11月から翌年の9月まで開設し、合格率向上に向け対応する	教員採用試験対策講座担当講師を新たに付け加え、対策を強化し1年間の開設を行い、合格率向上に向け対応する
	教育学部③							
小学校教諭、幼稚園、保育所(こども園)教諭、保育士、養護教諭の合格率を向上させることが課題							教員採用試験対策講座を開き、希望学生に一次試験対策、二次試験対策の指導、助言を行った	
ルーブリック評価の導入	R2	R3	R4	R5	R6	R7	・ルーブリックに関する教員との意見交換を行う ・作成方法検討項目の検討をする ・次年度以降完成に向けた作成依頼をする	・作成したルーブリック評価票を学生に配布し、使用方法について周知を行う ・4月～5月を移行期間とし、旧提出方法、新提出方法の受付を許可する
	通信教育事務部①							
・教員の理解と協力 ・学生への周知方法 ・ルーブリック評価表の作成方法 ・先行する豊岡短大との整合性							・教員との協議を経て、記載項目を決定した。この記載項目に則り、担当教員に作成を依頼した	

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
GPAの導入	R2	R3	R4				・検討項目を検討する GPA値 修得単位数ごとに評価 卒業等の時期で評価 GPA値の分布状況の検討 ・導入にかかる経費の算出	・GPAに基づき、学生指導方法の検討を行う
	通信教育事務部②							
通信教育学生の学修進行に則した評価方法の検討 ・成績不振者に対する個別学習指導 ・進級判定または卒業判定 ・授業科目履修者に求められる成績水準の設定 ・教員間、授業科目間の成績評価基準の平準化							・計画に基づき、ベンダーと協議を行い、GPAを導入した	
シラバス作成要領の変更	R2	R3					・教員との意見交換をする ・シラバス様式の決定をする ・作成依頼をする	・教員との意見交換を行う ・シラバス様式の検討を行う ・教員への作成依頼をする
	通信教育事務部③							
・準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間 ・課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ・授業における学習の到達目標及び成績評価の方法・基準 ・卒業認定・学位授与の方針と当該科目の関連 ・当該科目の教育課程内の位置づけや水準を表す数字や記号							・教員との意見交換を引き続き行う ・シラバス様式の検討を引き続き行う ・作成依頼までは至らなかった	
授業評価アンケートの実施		R3	R4	R5	R6	R7		・本校スクーリング以外のスクーリングへの実施を検討する ・印刷教材科目への評価方法を検討する ・評価後の分析・検討を経て授業改善につなぐ方法の検討をする
	通信教育事務部④							
・本校スクーリング以外のスクーリングへの対応 ・印刷教材科目への評価方法 ・評価後の分析・検討並びに授業改善を制度的取り組み								
学習成果の可視化 【第三者評価に基づく改善】		R3	R4	R5	R6	R7		学習成果の把握については、学位授与方針(ディプロマポリシー)の見直しを行った上で、学位授与方針で定めた測定方法や評価指標を可視化について検討を行う
	教育改善・内部質保証会議							
通信教育課程を含む学部・研究科において、学習成果の把握に努めているものの、学位授与方針に示す学生の学習成果に関しては、測定方法や評価指標が決められていない。今後は、学位授与方針に示した修得すべき知識、技能、態度等を明確にしたうえで、測定方法や評価指標を策定し、多角的かつ適切に測定を行うよう改善が求められる。								

○個別対策管理シート

Ⅰ 基本方針

Ⅰ-2 キャリア教育の充実

Ⅱ 主要対策

2-1 社会人力の向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
社会人力向上の取り組み(全学部共通)	R2	R3	R4				・各学年に応じて求められるマナー力を検討する ・各学年に対してマナー講座を実施する ・マナー講座受講後のアンケート調査を実施する	・各学年に応じて求められるマナー力を検討する ・各学年に対してマナー講座を実施する ・マナー講座受講後のアンケート調査を実施する
	教育学部①							
実習や就職活動や就職後等で活かせるマナーの基礎力から応用力までを取得							・4年生は、6月に就職活動に必要なマナー情報を作成し提供した ・3年生以下は、9月のオリエンテーションにおいて、就職・校友課よりマナー講習を実施した(3年生は病院・企業見学、インターンシップに活かせるマナー、2年生は話し方や電話応対マナー、1年生は生活習慣マナー) ・看護学部全学年に対して看護学生のマナー研修をオンラインで公開した ・マナー研修に対してのアンケート調査しており、振り返りをさせている ・教育学部においては、実習前の指導で実習記録に基づき、マナーについて学修し、学生に丁寧に指導した	
社会人力の向上を目指す(実習や就職後に役立つディプロマ・ポリシーに掲げる職場や地域等において他者と協働できる社会性やコミュニケーション能力を身に付ける)	R2	R3	R4				基礎ゼミや実習関連科目により社会人力の基礎を身に付ける	基礎ゼミや実習関連科目(個々の実習事前事後指導、介護体験実習等)により社会人力の基礎を身に付ける。また、地域ボランティアで大学外で社会と関わりながら社会人を磨いていく
	教育学部①							
実習や就職活動や就職後等で活かせるマナーの基礎力から応用力までの不足が感じられる							・教育学部では、基礎ゼミⅠで一般的な社会人マナーの基本を行っている。また、実習前の指導で実習記録に基づき、再度マナーについて学修している	

○個別対策管理シート

Ⅰ 基本方針

Ⅰ-2 キャリア教育の充実

Ⅱ 主要対策

2-2 専門職への就職率向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	担当部局							
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
全学的なキャリア教育の導入(全学部共通)	R2	R3	R4				・1,2年向きのキャリア教育の具体的な導入内容を検討する ・全学的なキャリア教育を実施する	・3年生は6月「就職ガイダンス(基礎編)」・、9月「学内病院合同説明会」、12月に「就職ガイダンス(応用編)」3月に【「就職ガイダンス(直前対策)」を実施する<看護学部> ・1年生から3年生は、9月のオリエンテーションで、「キャリアガイダンス」を実施する<教育学部>
	教育学部①							
・入学後からのキャリア教育実施 ・全学的なキャリア教育の導入により、高い就職率の維持やキャリア意識を向上							・1年生はキャリア教育科目「キャリア設計」を後期に配置し、キャリア目標設定やビジョンの表現を行う<看護学部> ・3年生は6月「就職ガイダンス(基礎編)」・、9月「学内病院合同WEB説明会」、12月に「就職ガイダンス(応用編)」3月に【「就職ガイダンス(直前対策)」を実施した<看護学部> ・1年生から3年生は、9月のオリエンテーションで、就職校友課による「キャリアガイダンス」を実施した<教育学部>	
キャリア支援を行うスタッフの強化(全学部共通)	R2	R3	R4				・キャリア支援を行う職員が能力向上のための研修を受講する ・研修を受けたスタッフが学生のキャリア支援を行う	・キャリア支援を行う職員が能力向上のための研修を受講する ・研修を受けたスタッフが学生のキャリア支援を行う ・研修の内容を課内で共有し活用する
	教育学部②							
・キャリア支援を行うための職員の能力向上 ・キャリアコンサルタントの資格取得							・キャリアコンサルタントの資格を持つ職員を就職・校友課に配置した ・キャリアコンサルタントのアドバイスのもと、職員が一体となって学生の就職相談・支援を実施した<キャリアアップ研修> ・5月、学内職員(CA)による学生進路相談研修受講 ・6月、外部講師(リクルート・CA)による学生就職指導 ・7月、外部講師(ディスコ・CA)による学生面接指導研修受講 ・7月、発達障害学生サポートセミナー	

○個別対策管理シート

Ⅰ 基本方針

Ⅱ-1 特色ある研究によるプレゼンスアップ

Ⅱ 主要対策

1-1 外部資金による研究の充実

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
外部資金獲得のための個人研究費における傾斜配分化	R2	R3	R4				他大学調査と制度の概略を策定する	「姫路大学個人研究費実施要項」を見直し、業績や研究成果により個人研究費の予算の傾斜配分を行う
	総務部①							
個人研究費は、業績及び研究成果に関わらず一律的な予算配分を実施しており、研究成果及び研究意欲との連動性の実現							研究成果等を個人研究費の配分に連動させるようR3年度の該当規程改正に向けた見直しを行った	
外部資金の獲得に向けた支援体制の整備							・現在申請していない教員の不申請理由の把握する ・科研に関する新たな学内説明会（各種書類作成）、講演会（外部講師）などの策定する	・申請への意欲に繋がるような説明会を複数回内容を変えて実施し、外部資金制度の仕組みを浸透させる ・外部資金制度に関する総務課の支援を強化する ・不申請の理由を受け、申請への意欲に繋がるような制度を構築する。具体的には、採択された申請書の「閲覧制度」、採択経験のある教員が申請書作成をサポートする「メンター制度」を導入する ・科研費制度の説明会を開催し、制度内容の周知を行う。また要望に応じ個別に説明を行い、外部資金制度の仕組みを浸透させる ・総務課の支援策として、採択された申請書の書き方のポイントをまとめ情報提供を行う
R2					R3	R4		
総務部②								
・外部資金制度に関する説明会を年1回実施しているが、申請に当たって課題となる事項の整理が出来ていないため、申請への意欲を促したりする仕組みを構築することが必要 ・現状の申請数は、教員数の4分の1未満であり、申請を活発化することが必要							・令和3年度に向けた外部資金への申請件数は、看護学部7件、教育学部3件であり、申請件数は伸びていない ・不申請の理由については、研究に割く時間が十分でない、申請書類作成に自信がないといった理由が挙げられた ・説明会は例年通りのものとなってしまう、新たな取り組みとなるような説明会の開催には至らなかった	

○個別対策管理シート

Ⅰ 基本方針

Ⅱ-1 特色ある研究によるプレゼンスアップ

Ⅱ 主要対策

1-2 研究成果の向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
研究成果の向上	R2	R3	R4	R5	R6	R7	・国内外の学会や学術誌などで研究成果を発表する ・外部資金の申請・獲得にむけ継続的に取り組む	・国内外の学会や学術誌などで研究成果を発表する ・外部資金の申請・獲得にむけ継続的に取り組む
	看護学研究科①							
大学院担当教員として各自の専門分野に関連する研究活動を継続的に実施、公表し、広く社会に還元することが必要							・国内外の学会はCOVID-19の影響をうけ学会の開催中止やオンラインによる開催となり発表数は全体的に低迷気味であったが、学術誌への発表は積極的に行われた(詳細は2020年度姫路大学看護学部・看護学研究科活動報告書第5巻参照) ・研究科担当教員による学部資金の申請・獲得状況は、科研費申請7件(研究代表者)、企業・大学院連携研究1件、新規分担者件数は4件であった	
科学研究費の申請数と獲得数の増加	R2	R3	R4	R5	R6	R7	外部資金の採択された研究及び学内の獲得的研究資金等に関するホームページでの公開を行う	科研に関する研修会の開催 科研申請率の前年度比増
	看護学部① (情報システム委員会)							
科学研究費の申請率の低迷							・ホームページの変更が未実施だが、スマートフォン対応した ・新しいホームページのリリースが出来ていないため、アップする内容の検討、レイアウト等の決定が出来なかった	
学術雑誌および学術集会での研究成果の公表数の増加	R2	R3	R4	R5	R6	R7	・地域公民館、老人会、婦人会を通して、地域に出向いて成果を公表する ・大学主催の研究に関する報告会を開催する	研修日の安定的確保 学術集会への参加奨励
	看護学部② (地域貢献活動委員会)							
・地域住民へは研究協力を依頼し、十分な成果を上げているが、地域住民への研究成果の還元が不十分 ・住民が抱えている健康問題や課題に関して聴講できる場の確保 研究活動コフォートの低下 研究成果の公表数の低迷							・今年度冬に2度目の緊急事態宣言が発令され、地域の公民館のイベントや事業は中止となった ・兵庫県看護協会協賛の各大学の「まちの保健室」も中止の要請があり、計画、実施することができなかった	

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
研究成果の向上のために、大学ホームページや学術情報リポジトリの活用とともに、研究活動の成果の社会への公表	R2	R3	R4				研究成果の向上を目指して、大学ホームページや学術情報リポジトリの整備を行うとともに、学術交流会やシンポジウムなどの開催を検討する	・研究活動の成果について大学ホームページや図書館からのデジタルアーカイブでの公開を進める ・学部内での研究報告として学術交流会や研究活動に関連するシンポジウム等の開催を検討する
	教育学部①							
研究活動の成果の社会への公表と還元が不十分							・大学ホームページでは、教員の研究について高校生や在学生向けに研究室紹介として研究内容を分かりやすく公開している ・図書館を経て、学術情報リポジトリを公開する確認を取り、デジタルアーカイブとして登録・公開を進めている ・学術交流会として、学術教育研究会を令和2年度は10月22日と2月25日に行い、各2名の教員の研究発表を行った（開催後、ホームページでも紹介している）	

○個別対策管理シート

Ⅰ 基本方針

Ⅲ-1 地域の知的・実践的拠点として発信力向上

Ⅱ 主要対策

1-1 教育・研究の地域への発信

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
地域の人々へ健康教育実践研究センターの周知	R2	R3					・研究センターは開設後間もないため、大学ホームページに研究センターの紹介や内容のページをつくり、センターの場所、相談手続き、実践プログラム内容などを地域の人々に分かりやすいように提示する ・研究センター便り等の作成や配布を通して、相談活動や公開講座などセンターで行うプログラムを地域の人々へ知らせる	・令和3年4月より一新される大学ホームページに、研究センターの紹介や内容のページをつくり、センターの場所、相談手続き、実践プログラム計画や内容などを地域の人々に分かりやすいように提示する ・「研究センターだより」等の作成や配布を通して、相談活動や公開講座などセンターで行うプログラムを地域の人々へ知らせる
	研究センター①							
センターの存在や実施プログラム内容を地域の人々への周知							・大学ホームページに研究センターの紹介や内容のページをつくり、センターの場所、相談手続き、実践プログラム内容などを地域の人々に提示したが、新型コロナウイルス感染のため、積極的な周知はできなかった ・「研究センターだより」を12月に作成して、相談活動や公開講座などセンターで行うプログラムの案内を行った	
地域の人々への支援の実践	R2	R3	R4	R5	R6	R7	地域の人々への支援ニーズ調査や効果の検証を通して、より効果的なプログラムを開発・実践する	・地域の人々への支援ニーズ調査やプログラムの効果の検証を通して、より効果的なプログラムを開発・実践する ・コロナ禍のような外出や集まりが制限されている状況でも可能なプログラムの一つとして、大学の教員と学生がweb版「親子遊び」を計画・作成し、家庭の子どもや保護者に配信する
	研究センター②							
ニーズを把握し、効果的な地域支援プログラムの実践開発							・新型コロナウイルス感染の拡大による緊急事態宣言等のため、十分なプログラム活動の実践や開発はできなかった ・「笑いヨガ」のプログラムは、感染予防を考え数回実施した ・「親子遊び」のプログラムは、中止とした ・他の新しいプログラムも計画したが実践できなかった	
大学から地域への発信	R2	R3	R4	R5			公開講座、公開講演会などの実施、センター年報等の作成を通して、大学における教育・研究の成果を地域への発信する	公開講座、公開講演会などの実施、センター年報等の作成を通して、大学における教育・研究の成果を地域へ発信する
	研究センター③							
大学における教育・研究の成果を地域への発信							・公開講座は、2月の予定だったが、緊急事態宣言のため中止せざるを得なかった ・公開講演会は、秋の段階で難しいと判断して中止した ・センター年報は、今年度のプログラム活動状況、調査研究報告などをまとめ、3月末に発刊、地域の人々への発信した ・11月に行われた大学評価における、社会連携・社会貢献の領域での評価はA(大学基準に照らして良好な状態にあり)であった	
大学から社会への発信		R3	R4	R5	R6	R7		地域や社会の人々に、姫路大学の教員の研究や研究センターの特色ある活動を知ってもらい、大学の地域における役割を広げるため、姫路大学教員の特色ある研究や研究センターを利用した特色ある活動をまとめた小冊子を発刊する
	研究センター④							
姫路大学ブックレット(小冊子)の作成・出版、姫路大学健康教育学会(仮称)の設立などを通して、広く社会へ発信								

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
大学の学部、大学院研究科の構成等を考慮した特色のある図書・資料の充実に努め、学生・院生・教職員、学外利用者への教育研究支援サービスの充実に取り組み、利用促進を図る							R2R3R4R5 図書館① ・学術機関リポジトリの整備のため、過年度に遡り、紀要執筆者に許諾をもとめ、公開する ・教育・研究支援サービスの充実に向けて、自宅からも可能とする図書貸出機能及び文献検索のオンライン化の拡充を図る	・学術機関リポジトリの整備について、令和3年度においては、「姫路大学看護学部紀要」の7号(2014)、8号(2016)、「姫路大学教育学部紀要」の7号(2014)、8号(2015)、9号(2016)に収録した論文をリポジトリに登録することとし、各執筆者へ許諾を依頼する。また、令和3年度に新たに刊行する本学の各紀要に収録の論文も合わせてリポジトリに登録し、公開する ・学位規則改正により、博士論文の公開は、インターネットでの公表が義務付けられており、同規則では公表手段には学位授与大学の機関リポジトリを原則として利用するよう明記されている。本学においても、博士論文はリポジトリにより公開していくため、当館における必要な受付体制や、学内手続き等を整備する ・利用者の資料へのアクセスを支援するため、図書館ガイダンスや文献検索講習会等を充実させる ・ホームページや各種広報ツールを通じて、図書館に関する情報の発信を充実させる ・新着図書案内、企画展示、テーマ別資料案内等を通じて、利用者が所蔵資料を有効に活用できるよう、資料紹介活動を行う ・読書マラソンの参加者を増加させるため、実施方法の見直しとPR活動に取り組む ・豊岡短期大学図書館との資料相互貸借サービスの円滑化に向けた整備に取り組む ・図書館に対するニーズ調査のため、学生、教員へのアンケート調査を行う ・図書館システムの更新に伴い、予算に見合いつつ、利用者も職員も使いやすく、図書館の利用促進につながる次期システムを慎重に選定する
学生及び院生の図書・資料の貸出の減少及び文献検索数の減少に加え、コロナ禍による図書へのアクセスの制限により、図書の利用が減少している							・令和2年度にリポジトリへ登録の対象となっている各論文の執筆者に対し、退職のため連絡先が不明となっているケースを除き、許諾書の提出依頼を行った。最終的に「姫路大学看護学部紀要」は14件中9件、「姫路大学教育学部紀要」は44件中15件、「姫路大学大学院看護学研究科論文」は16件中14件の許諾を得て、リポジトリへ登録した。また、ホームページにおいて、連絡先不明者からの許諾が得られるよう、許諾書の提出方法等について案内、呼びかけを行った ・コロナ禍における入構制限により在宅学習となった学生らの利便性向上を図るべく、契約データベースや電子ジャーナルのリモートアクセス手段を迅速に確保、提供した。また各社のデータベースや電子書籍の無料トライアルやコロナ特別支援キャンペーンも活用し、学生らに利用提供した。さらに学外から利用できる電子書籍の新規購入も進めた ・購読雑誌の適正タイトルの選定に関して、図書、雑誌等の利用頻度を確認し、検討した ・コロナ禍において来館困難な学生を支援するため、館内所蔵資料の郵送貸出や相互利用文献の自宅への無料配送サービスを行った。これらのサービスやその他レファレンスサービス等、これまで対面を原則としていた各種図書館サービスをオンラインで申し込めるように整備した	
姫路市とその周辺地域の高等学校との高大連携協定の推進							R2R3R4R5R6R7 地域貢献部① 兵庫県内の高等学校との高大連携を推進する	兵庫県内の高等学校との高大連携を推進する
高大連携校10校以上を目指し、姫路大学のブランディング向上と高等学校に姫路大学の魅力をアピールし、入学生を増やすまた、一定化することを目標とする。							兵庫県立香寺高等学校との高大連携協定締結した	・私立姫路女学院との高大連携協定締結した(4月) ・県立琴丘高等学校との高大連携協定締結した(3月) ・東洋大学附属姫路高等学校との高大連携協定締結に向けた協議を行った
姫路市との協力連携強化							R2R3R4R5R6R7 地域貢献部② 姫路市との連携を深める	姫路市との連携を深める
大学の使命を全うする地域貢献活動にとって、行政との関わりは必須である。市長公室をはじめ、各署との連携を深めたいと考える。							・姫路市長公室との協議を行った(10月) ・姫路市教育委員会との協議を行った ・姫路市長との会談を行なった ・姫路市こども支援課との会談を持った	

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
企業との関わり強化	R2	R3	R4	R5	R6	R7	姫路市を中心として、地域の企業と連携したスポーツイベントを実施する	姫路市を中心として、地域の企業と連携したスポーツイベントを実施する
	地域貢献部③							
姫路市発信で全国・世界に羽ばたい企業はたくさんある。また、地場産業を共に活性化する役割も大学にはある。様々な立案を携えて、チャレンジしたいと思う。このことが、学生のキャリアにも繋がっていると考えている。							・播州信用金庫と共同で「夏休みこどもスポーツフェスティバル」と「冬休みこどもスポーツフェスティバル」をハリマアルビオン後援で実施した ・株式会社ASハリマアルビオンと提携協定と締結し、スポーツの推進を行っている ・山陽電鉄と共同で、こどもスポーツ大会を実施しているが、本年は中止となった	・播州信用金庫と共同で「夏休みこどもスポーツフェスティバル」と「冬休みこどもスポーツフェスティバル」をハリマアルビオン後援で実施した ・株式会社ASハリマアルビオンと提携協定と締結し、スポーツの推進を行っている ・山陽電鉄と共同で、こどもスポーツ大会を実施しているが、本年は中止となった
兵庫県行政との関係強化。特に、スポーツでの関係を深め、ボランティア活動や障害者スポーツ推進の協力を実行する。	R2	R3	R4	R5	R6	R7	本学を会場とした障がい者スポーツイベントを実施する	障がい者スポーツを推進するための活動を強化する
	地域貢献部④							
兵庫県障がい者スポーツ協定を締結しているが、マンパワー不足で、目立った活動ができていない。また、コロナ禍もあり、思うように活動ができていない。							・障がい者スポーツ推進事業「風船バレー」を開催した ・学生ボランティアは、本学から6名、他大学から10名参加した	・コロナ禍のため障がい者スポーツ推進事業「風船バレー」は中止になった ・障がい者スポーツ推進事業「姫路大学Def サッカー部」を発足した
兵庫県教育委員会や知事との関わり強化			R4	R5	R6	R7		
	地域貢献部⑤							
子育て支援の活性化			R4	R5	R6	R7		
	地域貢献部⑥							

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
姫路大学校友会の活性化			R4	R5	R6	R7		
	地域貢献部⑦							
開学して以来、校友会運営が成されていない。まずは、名簿づくりとデータ作成。そして、校友会メンバーを増やすことに重きをおきたい。								
国際貢献と国際交流			R4	R5	R6	R7		
	地域貢献部⑧							
国際的な貢献と連携活動を推進したい。これには、本学学生も巻き込んだ事業としたい。								
地域こども塾、学童大学の実施			R4	R5	R6	R7		
	地域貢献部⑨							
課題はないが、どのように周知、運営をしていくか検討中。								
地域高齢者への支援活動			R4	R5	R6	R7		
	地域貢献部⑩							

○個別対策管理シート

I 基本方針

Ⅲ-1 地域の知的・実践的拠点として発信力向上

II 主要対策

1-2 自治体、企業等との連携強化

中長期計画		工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
		R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局									
現状の課題								令和2年度成果	令和3年度成果
地域の医療機関や教育機関との連携や研究のための基礎固め		R2	R3	R4	R5	R6	R7	地域の医療機関や教育機関と連携した支援について方法を検討し、実践を試みる(地域における、子育て相談・教育相談・発達や障害の相談・保健相談・高齢者相談などの役割の一部を担う、又、連携研究の可能性について検討する)	地域の高齢者の健康の維持促進を目的とした、大学と地域の共同研究体制の構築について検討する(例えば、地域高齢者の食事や生活パターンなどを調査し、大学と地域の高齢者が情報を共有しながら、継続的調査の実施や保健機関や医療機関との連携することで健康維持増進について)
		研究センター①							
地域の医療機関や教育機関と連携し、地域貢献のあり方の検討								新型コロナ感染の拡がりのため、地域の医療機関や教育機関との連携した支援についての方法の検討はできなかった	
兵庫県看護協会との連携		R2	R3	R4	R5	R6	R7	兵庫県看護協会と協議しながら、「まちの保健室」開催に向けた準備を行い、令和3年度開設を実現できるように進めていく	兵庫県看護協会と協議しながら、「まちの保健室」開催に向けた準備を行い、令和3年度開設を実現できるように進めていく
		研究センター②							
兵庫県看護協会と連携して「まちの保健室」をセンターの事業として実施し、地域住民の相談や健康支援の場として利用してもらうよう計画実践								「まちの保健室」開催に向けた準備のため兵庫県看護協会と協議したが、新型コロナウイルス感染の広がりで、他大学でもほとんど活動ができなかった	
医療や教育関連の企業との連携研究の計画				R4	R5				
		研究センター③							
・企業との連携により開発可能な地域の人々のニーズの調査、研究への参加の可能性や同意方法などについて検討 ・関連企業の選定、企業の担当者への説明や予算化などの可能性の検討									

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
医療や教育関連の企業との連携研究の実践				R5	R6	R7		
	研究センター④							
地域の高齢者や障害児者、子どもなどを対象に、行政や企業と連携した福祉用具・支援用具・教育アイテムの開発を、地域の人々と連携しながら実践(基礎データの収集、支援器具の開発、効果の分析など)								

○個別対策管理シート

Ⅰ 基本方針

Ⅲ-2 グローバル人材の育成

Ⅱ 主要対策

2-1 語学力の向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
英書講読の授業を充実	R2	R3	R4	R5	R6	R7	海外での学会発表を目指して、語学力の向上を図る授業の展開を行う	・海外での学会発表を目指して、語学力の向上を図る授業の展開をする ・ライティング力やスピーキング力にも力を入れる
	看護学研究科①							
現在は、看護学の英語で書かれた先行研究を読むことに焦点が置かれているが、海外での学会発表を目指すように、スピーキング力とライティング力の向上が必要							・コロナ禍での授業展開となったが、オンライン授業により英書講読に関する学修の継続ができた ・海外学会を紹介した ・典型的な英語論文の組み立てを指導した ・スピーキング力とライティング力の育成については、次年度以降の課題となる	
海外での学会や海外研修への参加	R2	R3	R4	R5	R6	R7	海外研修への短期間参加や海外での学会発表を行う	特に、大学院後期課程の学生には、積極的に、海外の学会への投稿を勧める(アブストラクト作成指導を含む)
	看護学研究科②							
海外での学会発表や、研修への積極的な参加							・海外の学会および国内の学会への投稿を促した ・大学院後期課程の学生のうち2名が、筆頭研究者として、2021年度開催のEAFONS 2021(East Asian Forum of Nursing Scholars 2021)に投稿し、採択が決まった	
国際プロジェクトへ参画	R2	R3	R4	R5	R6	R7	科目の内容と科目間のつながりを可視化するために、1年間の学習ログ(学習記録)を整備し、各科目の授業内容及び各科目間の整合性を明確にする	国際学会への参加奨励 国際交流イベントへの参加奨励
	看護学部①							
語学の履修に関しては、必修英語4科目、選択英語・国際科目1科目の選択必修となっているが、それぞれの授業の整合性 国際交流・国際連携の不足							・英語(英文法)と英語(英会話)との科目間整合性はできた ・両方の科目とも、新しく科目化した海外研修に連携できるものとした ・多言語科目やESP科目との連携も計画中である	

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
語学および看護プログラム科目の運用	R2	R3	R4	R5	R6	R7	・学生に科目として置いた海外研修を履修する機会を設け、英語で内容教科を学ぶ機会を与える ・語学と看護学、両方での学習に対するモチベーションを上げる	海外研修(語学プログラム)の実施と単位付与 海外研修(看護プログラム)の検討
	看護学部②							
学生の国際交流機会の不足							・海外語学研修のプログラムの中に看護学の内容を盛り込んだオリジナルプログラムを計画していたが、COVID-19パンデミックにより海外研修実施はいったん中止となった ・カナダ・ビクトリア大学のオンライン学習プログラムが始まり、本学1年生の学生3名が、後期の授業が終わった時点で、参加した ・このプログラム参加については、単位は付与されない	
英語を中心とする外国語の語学力向上	R2	R3	R4	R5			国際性豊かな教育者およびグローバル人材として必要な語学力を身に付けるために効果的な外国語関連科目の編成及び講義内容を見直す	国際性豊かな教育者及びグローバル人材として必要な語学力を身につけるためにさらに効果的な外国語関連科目の内容を見直す
	教育学部①							
・2020年度施行新学習指導要領において教科「外国語」が小学校に導入されるが、外国語およびその指導に対する苦手意識 ・英語検定資格の取得、TOEIC等の評価点向上							・「外国語総合Ⅰ」においてTOEICに関する技能向上を目指す講義内容を扱うとともに、令和3年度より「海外研修」を新設することを検討した	
姫路大学ゲートウェイ(仮称)の発足・運用(全学部共通)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	語学教育を向上させるために特化した機関を設立	グローバルゲートウェイの施設を充実させ、語学教育のサポート体制を整える
	国際交流検討部会①							
・語学教育を向上させるために特化した機関の未整備 ・授業外以外での語学教育の機会を提供							・大学生の英語の苦手意識を軽減するために、グローバルゲートウェイ開設を目指した ・施設整備に関しては、ほぼ充足した ・学部学生の海外研修(オンライン授業)のサポートをした(事前に、教員3名がサポート体制を組むために、提携大学の事前研修を受けた) ・グローバルゲートウェイの宣伝も兼ね、看護関連の学会のシンポジウムにおいて、本学の国際教育とゲートウェイの紹介をした	

○個別対策管理シート

Ⅰ 基本方針

Ⅲ-2 グローバル人材の育成

Ⅱ 主要対策

2-2 国際交流の推進・強化

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
海外の提携先大学への学生の送り出し	R2	R3	R4	R5	R6	R7	海外提携先大学へ学生を送り出し、プログラムに沿った研修を受ける	海外提携先大学へ学生を送り出し、プログラムに沿った研修を受ける
	看護学研究科①							
提携先大学では、看護学の短期研修を予定しており、大学院生に、英語での研修を経験させ、英語学習へのモチベーション向上が必要							・COVID-19により、2020年度は海外渡航ができなくなり、看護プログラムの実施は中止となった ・提携先大学で、5月よりオンライン授業を始めたことにより、学部学生は語学プログラムのオンライン授業を受講しているが、大学院生に対しては実施されていない ・予定していた看護プログラムは対面授業との制約があったため、オンライン授業の実施はできなかった	
提携先からの研究者の招聘や大学院生の短期研修の受け入れを実施	R2	R3	R4	R5	R6	R7	海外の提携大学との大学院生や教員間の交流を検討する	海外の提携大学との大学院生や教員間の交流を検討する
	看護学研究科②							
提携大学では看護学生の短期研修の送り出しを予定しており、大学院生や教員間の交流を検討することが必要							・提携大学の学部長訪問が予定されていたが、COVID-19パンデミックのため、中止となった ・送られてきたビデオメッセージやオンライン授業の案内を大学院生や関心のある教員に情報共有をした ・予定していた大学院生のビクトリア大学における「看護プログラム」は、COVID-19パンデミックのため、実行されなかった	
提携先大学で語学・看護学を学ぶ機会の充実 (語学力アップと連携)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	既に海外研修は科目化しており、海外提携先大学への学生の送り出しをする	海外研修(語学)のオンライン授業を実施する
	看護学部①							
海外において、語学及び看護学を学ぶ機会がない							・海外提携先大学への学生の送り出しを計画していたが、COVID-19パンデミックにより中止となった ・オンラインでの科目受講の案内を行い、学習機会の提供を行った ・後期授業が終わった時点で、学部生3名が提携大学で実施された語学オンライン授業(週3回×4週間、計40時間)に参加した(2020年度の履修は単位化されない) ・学部生・大学院生・教員がともに参加を予定していたビクトリア大学での「看護プログラム」は、COVID-19パンデミックにより実施されなかった	

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
提携先からの研究者の招聘及び学生の受入	R2	R3	R4	R5	R6	R7	学内において、海外の大学の教員・学生を招聘し、外国の文化に触れる機会を設ける	提携先からの研究者や学生の受け入れを検討する
	看護学部②							
・学内において、海外に眼を向けさせる機会の不足 ・海外の事象に注意を向けさせるために、学生及び研究者の招聘							・令和元年度香港理工大学の教員が本学を訪れ、2020年度に教員・学生交流の計画立案を行ったが、COVID-19パンデミックにより中止となった ・学会シンポジウムでの交流などにより、香港理工大研究者との連絡は途絶えていない ・大学院の学生に対しては、国際学会への応募など、看護の国際化へのモチベーションを高める努力をした	
海外への留学及び海外からの留学生受入プログラム等の充実	R2	R3	R4	R5			海外への留学や海外からの留学生の受け入れ等のプログラムを計画する	海外の提携大学によるオンライン語学講座等のプログラムを実施する
	教育学部①							
・小学校に導入される教科「外国語」に対する苦手意識 ・留学などの経験を有している学生が少ない							国際性豊かな教育者およびグローバル人材の育成を目指して、令和3年度より共通教育科目における外国語科目として「海外研修」を新設することとした	

○個別対策管理シート

Ⅰ 基本方針

IV-1 効果的な広報活動による入学志願者の増加

Ⅱ 主要対策

1-1 広報活動の質向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
志願者増加及び入学者の安定的確保	R2	R3	R4	R5			・PR時期を考慮し戦略的な高校訪問を検討する ・18歳人口の減少に伴い兵庫県内だけではなく県外から志願者を獲得できるよう近畿、中四国地方にも高校訪問を行い情報を発信する ・地元の姫路市を中心にきめ細かく訪問し担当者との会話等を重視する中で、安定的な入学者確保につなげる	・PR時期を考慮し戦略的な高校訪問を検討する ・ホームページ、ネット媒体の情報を強化し、県外から志願者を獲得できるよう情報を発信する ・学生募集に係る高大連携校の締結を図る
	入学センター①							
18歳人口が減少している中で両学部とも安定的な入学者確保が課題							・新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の影響で高校訪問に行くべきタイミングに行けなかった ・看護学部、教育学部とも志願者数が減少した	
偏差値の向上	R2	R3	R4	R5			・志願者数を増やすためオープンキャンパス以外に出前授業を充実する ・偏差値が高い生徒を確保するために、出口の部分である各試験の合格率を上げる	・志願者数を増やすため進学相談会への参加、オープンキャンパスの中身を充実する ・広告媒体の見直しする
	入学センター②							
偏差値の高い学生を受け入れていくことが課題							新型コロナウイルスの影響により出前授業が出来なかった	
入学者の安定的確保	R2	R3	R4	R5	R6	R7	・実習関連施設で働く看護職者や本学の卒業生に対して大学院教育への関心を高めるために入試要項等の配布や訪問を実施する ・学部生を対象に各自のキャリア設計にむけ大学院教育の啓発に努める	・実習関連施設に本学研究科についての情報発信を行いPRに努める ・卒業生や兵庫県下の看護専門学校などに大学院案内や入試要項などを郵送しPRに努める ・学部生を対象に各自のキャリア設計にむけ大学院教育の啓発に努める ・全国の病院、看護協会等にリーフレット及びOCチラシの発送、看護部長への依頼電話を行う ・全国の病院、看護協会等にリーフレット及びオープンキャンパス開催案内の発送、看護部長への依頼電話を行う
	看護学研究科①							
博士前期課程の志願者は、昨年度より漸次的に減少傾向にあり、安定的な定員確保の対策が必要							・新型コロナウイルスの影響のため実習関連施設の訪問は実施できなかった ・兵庫県下の看護専門学校などに入試要項などを郵送した ・学部生を対象に各自のキャリア設計にむけ大学院教育の啓発に努めた ・コロナ禍の影響もありオンラインによる授業展開の見通しが確保できたため全国を視野に入れ入学者の確保に務めた。その結果、博士前期課程は神奈川県1名、福岡県3名、後期課程は神奈川県1名の入学者が確保ができた	

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
編入学の定員管理 【第三者評価に基づく改善】		R3	R4	R5	R6	R7		志願者増加及び入学者の安定的確保の計画のとおり、また、編入学の定員管理（豊岡短大・通信教育課程との連携、HPによる広報など）の対策を検討する
	教育改善・内部質保証会議							
教育学部の編入学については、通学課程では定員10名に対し過去5年間の入学者数は0名から3名を推移しており、過去5年間の編入学生数比率が0.12と低い。前回（2013年度）の大学評価指摘事項であり、定員管理を徹底するよう、改善する								
教育学部の定員充足 【第三者評価に基づく改善】		R3	R4	R5	R6	R7		・志願者増加及び入学者の安定的確保の計画のとおり、具体的な対策を検討する ・教育学部の改編を検討する
	教育改善・内部質保証会議							
教育学部こども未来学科で過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.61、収容定員に対する在籍学生数比率が0.60と低く、学士課程全体の収容定員に対する在籍学生数比率も0.84と低いため、学部の定員管理を徹底するよう改善する								

○個別対策管理シート

Ⅰ 基本方針

IV-1 効果的な広報活動による入学志願者の増加

Ⅱ 主要対策

1-2 入試制度 改革

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
学力の三要素を含んだ入試の構築への見直し	R2	R3	R4	R5			次年度から入試制度が新しくなることから、高校生及び高校教員等に対して、分かりやすい丁寧な説明を検討する	・高校生及び高校教員等に対して、分かりやすい丁寧な説明を検討する ・さらに入試の見直しを進め、多方面からの選抜を行う
	入学センター①							
学力の三要素を満たした入学試験の実施							・不明な点はLINE等で個別に相談できる環境を整えた ・一般選抜に面接試験を取り入れるなど、多方面からの選抜を行った	

○個別対策管理シート

Ⅰ 基本方針

Ⅳ-2 財政基盤の安定化とガバナンスの強化

Ⅱ 主要対策

2-1 収入増加と管理経費抑制

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	担当部局							
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
中長期資金計画の策定とそれに基づく予算配分	R2	R3	R4	R5	R6		・過去の決算を分析する ・中長期資金計画の情報を共有する ・資金計画を策定する上で必要となる各種計画を収集する	・収入見込みに基づいた予算配分を行う ・中長期修繕計画を作成し、各部局と共有する
	管理部①							
部局の枠を超えて、学校単位や学校法人単位での協力体制の下、計画策定することが必要							まず過去3年間の決算の取りまとめ作業を行ったが、分析には至っていない	
施設の有効的活用と施設貸与の整備・料金見直し	R2						問題点の洗い出しと規程を改定する	
	管理部②							
・施設利用料は、この10年間変更していないが、利用希望者は増加しており、料金体系の見直しが必要 ・有償貸出と無償貸出の基準が曖昧であり、明確な基準が未整備							・貸出対象により、2種類の料金体系に改定を行った ・有償と無償の判断基準については、原則有償という観点から今回基準を明確にすることは見送った ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で外部への貸出を中断しているが、状況が戻れば積極的に貸与を行っていく	
補助金獲得	R2	R3	R4	R5	R6	R7	私立大学改革総合支援事業のいずれの項目を目指すかを検討する	各項目の具体的な取り組みを担当部局と総務課で連携を図りながら進めて行く
	総務部①							
私立大学改革総合支援事業に取り組むことで大学自体の質等が上がり、補助金も獲得できるが、現状取組が未実施							・私立大学改革総合支援事業のなかのタイプ3「地域社会への貢献」の項目に焦点を絞り、獲得に向け取り組む委員会を始動させた ・各項目に対し担当部局を決定し、現状把握と今後の取り組みに向けたスケジュールを作成した	

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
補助金獲得② 「第三者評価に基づく改善」	R2	R3	R4	R5	R6	R7		一般補助の各項目について、減額対象となっている項目の内容の精査を行い、各部署と連携を図りながら改善点の整理を行う
	総務部②							
私立大学等経常費補助金の一般補助について、減額となる項目についての精査を行い、減額の解消または増額に転換させる改善が必要								
人件費の削減② 「第三者評価に基づく改善」	R2	R3	R4	R5	R6	R7		適正な人員配置による適正な人件費の支出を図る 業務改善を積極的に遂行し、時間外勤務を抑制することで、時間外勤務手当を昨年度より削減する
	総務部③							
人件費率が全国平均に比べ高い比率で推移しているため、改善が必要								
収入増加を目的とした学生サービスの向上	R2	R3	R4	R5			・キャッシュレス決済導入に向けた情報収集を行う ・対応可能なベンダーの情報収集、システム内容の確認、システムのシナリオ構築計画、初期費用、ランニングコストについて検討する ・決済ツール多様化の有用性確認を目的とした利用者アンケート調査を検討する ・導入に伴う費用対効果を検討する	・withコロナ時代に即したキャッシュレス決済導入に向け、対応可能なベンダーの情報収集、システム内容の確認、システムのシナリオ構築計画、初期費用、ランニングコストについて検討する ・決済ツール多様化の有用性確認を目的とした利用者アンケート調査を検討する ・導入に伴う費用対効果を検討する
	経理・財務部①							
経理業務の効率を下げず、学生サービスを向上させ、付加価値を高める、間接的な収入増加策を模索							・コロナ禍により、利用者アンケート調査計画を断念し、次年度に計画を繰り延べした ・兵庫県下の全大学の学費等納入方法と証明書手数料徴収方法について情報収集を行った ・学費については従来通りの銀行振込が主流であるが、クレジット決済などマルチペイ導入の余地は残しているが、証明書発行等、窓口納入に関しては、他大学と比較しても遅れている ・教務課とのシステム連携も必要であるが、自動発行機の導入も含めて検討が必要であり、具体的な内容についての検討には至っていない	
収入増加及び管理経費抑制を目的とした財務関係比率に関する指標の策定	R2	R3	R4	R5	R6	R7	・それぞれの財務関係比率から見た経営判断指数の構築を検討する ・単年度ベースの目標数値の構築を検討する ・目標達成年限と目標数値の構築を検討する	・定量分析と損益分岐計算を引き続き行う ・それぞれの財務関係比率から見た経営判断指数の策定 ・単年度ベースの目標数値の策定 ・単年度ベースの目標値の策定から目標達成年限と目標数値の構築を検討する
	経理・財務部②							
・経営状態を表す経営指標のプラスへの転換が必要 ・単年度ごとの細かな数値目標が必要 ・全学的な取り組みによる目標設定の必要性 ・その指標を検討しうる経営判断指数等の資料を構築							・定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分の分析(私学事業団)を実施 ・損益分岐計算(学部別)を実施 ・自己診断チェックリストを作表 ・目標値の洗い出しを行い検討したが、構築と策定まで至っていない	

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画					
	R2	R3	R4	R5	R6	R7							
担当部局													
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果					
入学前教育の実施方法見直し(全学部共通)							R2	R3	R4				
							教育学部①						
本学は全額負担で入学前の全学生へ業者による入学前教育を実施しているが、フォローアップ課題の提出については意識の差が大きく、入学前教育のフォローアップに対して実態が伴わない学生の存在							入学前教育の実施方法を検討する						・コロナ禍での有効な入学前教育の実施方法を検討する ・今後もonlineを活用することにより入学前の遠方の学生については対面実施することなく遠隔での実施も可能であるように常態化を検討する
本年度は学生負担で実施した<看護学部> ・看護・医療系内容・生物・ロジカルライティングを学修し、学生の入学後の学修のモチベーションを上げ、学生の関心・学習習慣・学力を高めることができた<看護学部> ・学内教員が課題等を作成し、入学前の学生に実施した<教育学部> ・今年度はコロナ禍の状況にあり、対面での全面实施が難しいため、一部onlineを併用して実施した<教育学部> ・学内教員が担当することにより、学生の特質がつかみやすく、入学後の教育・学修に役立っている<教育学部>													
高学年国家試験対策模試の実施方法見直し(看護学部)							R2	R3	R4				
							教育学部②						
国家試験対策模試の実施方法を検討する							コロナ禍での国家試験対策模試の実施方法を検討する						
全員を対象に国家試験対策模試を実施しているが、意識の低い学生が模試を受験していない状況							・国家試験対策模試や対策講座の受験料・受講料は大学が負担し、学生のモチベーションを上げることができた ・コロナ禍でもあり、通学しての学修に制限がかけられ、自宅学習で集中できたかまた、onlineでの対策講座の受講で成果を得られたかなど、なかなか評価が難しいところである						
Ipadデジタルテキストの導入検討(全学部共通)							R2	R3	R4	R5	R6	R7	
							教育学部③						
Ipadデジタルテキストを導入した場合の費用シュミレーションをする							令和2年度の状況を踏まえ、デジタルテキスト導入の実施の有効性や問題点を抽出し、実施の是非の検討を行う						
・学生が支払うテキストの費用が高く、学生は実習に大量のテキストを持ち込んでいるが物量や劣化や重量が大きな負担 ・授業での配布プリントの印刷経費が高額となり経費削減必要							・本年度はコロナウィルス感染症の流行に伴い、授業をonlineで実施することとなった ・このことに多大な時間を要したため、デジタルテキストの検討を延期した						
奨学金制度の見直し							R2	R3	R4	R5			
							入学センター①						
奨学金制度の見直しを検討する							さらに奨学金制度の見直しを進めていく						
各奨学金制度の精査を行い制度の見直しを実施							奨学金規程を大幅に変更したことにより、支出を抑制した						

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
教職課程の入学定員の削減	R2	R3					・入学定員数の実勢に即した定員の検討をする ・新コースの検討をする	・教職課程の定員内訳変更を検討する ・学則に定める教員養成コース入学定員200名は変更せず、免許種別「幼稚園教諭」「小学校教諭」「養護教諭」ごとに入学定員を設定することが可能か否か文科省教職員課に確認する必要がある
	通信教育事務部①							
入学生数の実勢にあった入学定員の削減							・収容定員の変更はなく、大学卒業を目的とするコースと教員養成コースそれぞれの入学定員(以下「入」)、収容定員(以下「収」)を変更した ・大学卒業を目的とするコース 「入」300名→500名、「収」1,200名→2,000名 ・教員養成コース「入」400名→200名、「収」1,600名→800名	
中長期の財政計画の策定及び財政基盤の確立【第三者評価に基づく改善】		R3	R4	R5	R6	R7		学校法人弘徳学園経営改善計画、中長期計画等に基づき、学長のリーダーシップの下、内部質保証会議を実施し確認をする 各部局がPDCAサイクルを実施し、それぞれの目標を達成することにより、教育の質の向上、及び、財政基盤の確立に向けた取り組みを実施する
	教育改善・内部質保証会議							
「要積立額に対する金融資産の充足率」は、2015(平成27)年度以降、急激に減少しており、「事業活動収入(帰属収入)に対する翌年度繰越支出超過額(翌年度繰越消費支出超過額)の割合」は漸増傾向にあり、教育研究の持続性が危ぶまれることから、「経営改善委員会」が決定したグランドデザインに基づく適切な中・長期の財政計画を早急に策定し、財政基盤の確立に向けた取組みを着実に実行するよう是正すること								

○個別対策管理シート

Ⅰ 基本方針

Ⅳ-2 財政基盤の安定化とガバナンスの強化

Ⅱ 主要対策

2-2 組織改革と基幹人材育成

中長期計画	工程表 R2 R3 R4 R5 R6 R7 担当部局							令和2年度計画	令和3年度計画
	現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
業務のマニュアル化	R2	R3	R4	R5	R6			業務の棚卸による業務内容、実施時期を可視化する	- 業務マニュアルについて、作成可能な業務については継続して作成していく - 担当者不在でも、緊急性の高い業務については課内で対応できる体制を整える
	総務部①								
- 各部局とも業務担当者の業務経験が浅い - 業務の属人化傾向								- 年度末に業務の棚卸を行い、実施時期を可視化した - 業務マニュアル作成に着手した - 担当する業務についてSD研修で取り上げ、知識の向上へ繋げた	
SD研修の推進	R2	R3	R4	R5	R6	R7		- 現状の研修会開催状況の把握と各部局への更なる研修会実施を依頼する - 部局横断型の研修会を実施する	- 各課内のSD研修を継続して実施し、専門的知識を要する業務についてはシリーズ化して知識の習得に繋げる - 外部研修会(オンライン研修会含む)へ積極的に参加する - 部局横断型の研修会を実施する
	総務部②								
- 簡易的な業務のルーティンワークが、業務全体に占める割合が高く、専門的知識を要する業務への対応が不十分 - 専門的知識を習得するような機会が少ない								- 総務課内のSD研修会について、専門知識を要する業務について研修を行った - 今年度においてはコロナにより積極的な外部研修会への参加とはいかなかったが、オンラインにより複数回参加した - 部局横断型の研修会は実施出来なかった	
人事評価制度の改善	R2	R3	R4	R5				- 評価観点を整理する - 評価者の評価基準を整理する - 評価者教育を検討する	- 評価者の評価観点が大きく乖離しないような評価基準を設定する - 人事評価制度の評価基準が公平になるよう評価基準を見直し、職員に評価内容を選元することでモチベーションアップに繋げる
	総務部③								
- 人事評価制度を導入しているが、人事評価が職員のモチベーション向上等に繋げること - 人事評価者の評価観点を統一すること								- 人事評価を昨年度と同様の内容での実施し、評価観点を整理出来なかった - 人事評価評価自体が職員のモチベーション向上に繋げる直接的なものには出来なかった - 評価者教育については例年の課題となっているが、具体的な教育の実施には至らなかった	

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
内部質保証システムの機能化 【第三者評価に基づく改善】		R3	R4	R5				年間計画通りに教育改善・内部質保証会議を恒常的に開催する。各部局からの業務改善の提案や、教育改善・内部質保証会議からPDCAマネジメントシートを用いた各部局への提言を行い、組織的な改善の仕組みを機能させていく
	教育改善・内部質保証会議							
前回(2013年度)の大学評価で指摘を受けた事項について、対応が十分でないため、教育改善・内部質保証会議を中心とした内部質保証システムを機能させること								
学位授与方針(ディプロマポリシー)の見直し 【第三者評価に基づく改善】		R3	R4					教育改善・内部質保証会議より各学部及び研究科、通信教育課程に提言及び議論し、学位授与方針の見直しを行う
	教育改善・内部質保証会議							
看護学部、教育学部通学課程、教育学部通信教育課程及び看護学研究科博士前期課程では、学位授与方針に、修得すべき知識、技能、能力など当該学位にふさわしい学習成果を具体的に示していないため、改善すること								
教育課程の編成・実施方針カリキュラムポリシー)の見直し 【第三者評価に基づく改善】		R3	R4					教育改善・内部質保証会議より各学部及び研究科、通信教育課程に提言及び議論し、カリキュラムポリシーの見直しを行う。なお、博士後期課程については完成年度後(令和4年度)に対応する
	教育改善・内部質保証会議							
看護学部、教育学部通学課程、教育学部通信教育課程、看護学研究科博士前期課程及び博士後期課程では、教育課程の実施に関する基本的な考え方を示していないため、改善すること								

豊岡短期大学

中 長 期 計 画

○個別対策管理シート

I 基本方針

I-1 教育の付加価値向上

II 主要対策

1-1 教育力の向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
教員の教育力の向上	R2	R3	R4	R5	R6	R7	・PDCAサイクルの実施と検証を継続し、今後の教育活動に反映できる体制をつくる ・教員間での公開授業の実施による自己研鑽の場を確保する	コロナ禍でオンラインの授業など、授業形態が多様化する中、教員自身が教育力を向上できる研修制度などを検討、実施する
	こども学科①							
・教科ごとにPDCAサイクルを作成し、教育活動の成果と今度の教育活動のあり方を常にチェックできる体制の強化 ・FD研修を通して、教員の教育力向上に向けた公開授業の実施による自己研鑽の場の確保を行い、実践力を身につけることのできる機会の確保							・科目ごとのPDCAサイクルの検証を行い、授業改善をした ・教員間で授業を公開し合うことで、お互いの授業法から、自身の授業法の改善につなげた	
外部の評価を取り入れた教育活動の効果の検証	R2	R3	R4	R5	R6		・実習先(園)との懇談会を実施する ・実習学生に関する実習状況等のアンケートを実施する ・卒業生の就労状況アンケートを実施する	・実習先との情報共有内容を含め、本学の3つのポリシーや学習成果を見直す ・アセスメントポリシーに基づく学習の成果を検証する
	こども学科②							
・実習先(園)との懇談会を継続的に実施し、実践的な知識、技能の習得状況の確認と課題の共有 ・卒業生の就労状況の外部評価(アンケート)を行い、学生指導やカリキュラム編成に活用							・コロナ禍で実習懇談会は実施できなかったが、実習訪問等で、どのような学生を必要とするかなどの情報共有を図った ・卒業生向けの就労状況アンケートをもとに、学生指導の在り方を見直した	

○個別対策管理シート

I 基本方針

I-1 教育の付加価値向上

II 主要対策

1-2 教育効果の可視化

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
保育者に求められている養成科目等の学習成果の可視化と学びの質の保証	R2	R3	R4	R5	R6		学生に分かりやすい、カリキュラムマップとカリキュラムツリーを作成する	アセスメントポリシーやカリキュラムマップや、カリキュラムポリシーをもとに、学生が学習活動を進めていけるよう指導する
	こども学科①							
学習成果の達成と各授業科目の関連性が不明瞭							学生にわかりやすいカリキュラムマップとカリキュラムポリシーを作成した	
GPA制度の導入と評価の数値化に伴う学習指導への活用	R2	R3	R4	R5	R6		GPA制度の導入と数値化基準の検討を行い、本学の学習指導に取り入れる	各科目の平均GPAを算出し、学生及び教員に公表するアセスメントポリシーに基づく学習成果の検証と連動する
	こども学科②							
GPA制度の導入により評価の数値化							GPA制度を導入し、学生へ通知した	
GPAの導入	R2	R3	R4				・検討項目を検討する GPA値 修得単位数ごとに評価 卒業等の時期で評価 GPA値の分布状況の検討 ・導入にかかる経費の算出	各科目の平均GPAを算出し、学生及び教員に公表する
	通信教育事務部①							
通信教育学生の学修進行に則した評価方法の検討 ・成績不振者に対する個別学習指導 ・進級判定または卒業判定 ・授業科目履修者に求められる成績水準の設定 ・教員間、授業科目間の成績評価基準の平準化							GPAの運用ルールを検討し、新たに規程を整備した。この規程に則り、教務システムにGPAを導入し、運用を開始した	

中長期計画		工程表					令和2年度計画	令和3年度計画
		R2	R3	R4	R5	R6		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
シラバス作成要領の変更		R2	R3				・教員との意見交換を実施する ・シラバス様式の決定をする ・作成依頼をする	作成例を示したうえで、各科目の新様式によるシラバス作成を依頼する
		通信教育事務部②						
・準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間 ・課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ・授業における学習の到達目標及び成績評価の方法・基準 ・卒業認定・学位授与の方針と当該科目の関連 ・当該科目の教育課程内の位置づけや水準を表す数字や記号							学務委員会で教員と職員の意見交換を実施し、シラバスに準備学修、当該科目の位置付けを示すナンバリング等を追加した新様式を決定した	
授業評価アンケートの実施			R3	R4	R5	R6	R7	本校スクーリング以外のスクーリングについて、アンケート項目を検討したうえで、授業評価アンケートを実施する
		通信教育事務部③						
・本校スクーリング以外のスクーリングへの対応 ・印刷教材科目への評価方法 ・評価後の分析・検討並びに授業改善を制度的取り組み								

○個別対策管理シート

Ⅰ 基本方針

Ⅰ-2 キャリア教育の充実

Ⅱ 主要対策

2-1 社会人力の向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	担当部局							
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
キャリアアップⅠ・Ⅱ・Ⅲの出席率向上	R2	R3	R4	R5			・ガイダンス、オリエンテーションにおける学生への説明の充実を図る ・学生の関心が高まる授業内容の検討をする	・ガイダンス、オリエンテーションにおける説明の充実と履修登録指導を図る ・教務委員会、こども学科及び授業担当教員に対し、シラバスの検討を提案する
	教務学生部①							
・科目の重要性に関する学生理解の促進 ・授業内容の見直し							・年度当初はコロナ禍でのスタートとなり、対面授業ができなくなったが、授業再開時に再度オリエンテーションの時間を設け、仕切り直しを実施した ・授業内容についても、2か年課程での免許・資格科目取得が行えるよう、一部の科目については通信教育部の協力のもと、カリキュラムを再考し取り組み、対応した	
学生指導委員会、進路指導委員会の活動内容の見直し	R2	R3	R4	R5	R6		・各委員会のPDCAに社会人力向上に関する内容を加えることを検討する	前年度の取組等を確実に次年度の委員長へ引継ぎを行い、各委員会のPDCAの前年度の課題をもとに、各委員会と役割分担を明確にして各委員会の本年度活動目標を決定して、目標に向けた具体的取組を作成して遂行する
	教務学生部②							
各委員会の活動内容の再検討							・令和2年度はコロナ禍により計画していた学外講師を招いての講演が実施できなかった(ハローワーク、税務署、卒業生) ・今年度から弘徳教育とキャリアアップⅢとの連携により、社会人としての心構えの醸成、社会人力の向上を目指した指導を行った ・令和3年度に各委員会と協力し、社会人力の向上に向けて取り組む方針となった	

○個別対策管理シート

I 基本方針

I-2 キャリア教育の充実

II 主要対策

2-2 専門職への就職率向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
専門職への期待値を向上させる委員会活動	R2	R3	R4	R5	R6	・進路指導委員会、地域交流委員会、公開講座委員会及び学生指導委員会の合議並びに活動内容の見直しを図る	前年度の取組等を確実に次年度の委員長へ引継ぎを行い、各委員会のPDCAの前年度の課題をもとに、各委員会と役割分担を明確にして各委員会の本年度活動目標を決定して、目標に向けた具体的取組を作成して遂行する	
	教務学生部①							
各委員会の連携した活動							・令和2年度はコロナ禍により計画していた学外講師を招いての講演が実施できなかった(ハローワーク、税務署、卒業生) ・今年度から弘徳教育とキャリアアップⅢとの連携により、社会人としての心構えの醸成、社会人力の向上を目指した指導を行った ・令和3年度に各委員会と協力し、社会人力の向上に向けて取り組む方針となった	

○個別対策管理シート

I 基本方針

II-1 特色ある研究によるプレゼンスアップ

II 主要対策

1-1 外部資金による研究の充実

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
科研費を中心とした外部研究資金の獲得額増加	R2	R3	R4	R5	R6		・科研費個別説明会を開催する ・姫路大学の職員と連携し、獲得並びに運用ノウハウ構築に着手する	・外部研究資金の獲得に向け、個別説明会以外に外部研修等で得た情報を周知する ・獲得に向けたノウハウ構築のため、採択経験のある教員と連携を図る
	総務部①							
科研費をはじめとした外部研究資金獲得並びに運用ノウハウの蓄積が必要							・科研費の応募について対象教員へ周知し、希望者に対して個別説明会を開催した ・姫路大学の職員と連携し、内部監査や運用方法を見直したが、獲得ノウハウ構築に着手できなかった	

○個別対策管理シート

I 基本方針

II-1 特色ある研究によるプレゼンスアップ

II 主要対策

1-2 研究成果の向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
研究紀要の質向上	R2	R3	R4	R5	R6	R7	研究紀要の査読規定を充実発展できるように検証する	・紀要の募集時期、査読期間などを見直し、発行時期の見直しを行う ・紀要発行における学内関係者の負担を軽減し、効率的に編集発行ができる体制を整える
	こども学科①							
・査読体制の充実 ・研究紀要への投稿促進							・査読体制の確立はできているが、査読期間等を見直した ・研究投稿へは、学科の教員のみならず、学外からの共同研究での投稿もあり、研究活動が充実した	
科研費等学内外研究助成金獲得に関わる研究奨励と支援	R3	R4	R5	R6	R7			・科研費の獲得ができるよう支援体制を検討する ・科研費の説明会を開催し、学科としても共通の研究テーマについて情報共有を図る
	こども学科②							
科研費等学内外研究助成金獲得に関する研究体制が不十分								

○個別対策管理シート

I 基本方針

Ⅲ-1 地域の知的・実践的拠点として発信力向上

II 主要対策

1-1 教育・研究の地域への発信

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
豊岡地域での認知度の向上	R2	R3	R4	R5	R6	R7	地域の子育て支援目的としている「こどもフェスタ」を内容、実施時期、実施場所等を再検討する	コロナ禍においても安全に地域の方々と交流できる方法を検討する
	こども学科①							
・豊岡キャンパスの地域での認知度向上 ・学生が1年間を通じて研究・企画した「こどもフェスタ」の対象年齢の幅が広い ・実施内容及び時間の見直し							こどもフェスタを実施したが、コロナ禍のため、地域の方を招待することはできなかった	
姫路地域での認知度の向上	R2	R3	R4	R5	R6	R7	地域の子育て支援目的としている「こどもフェスタ」の実施を検討する	・コロナ禍においても安全に地域の方々と交流できる方法を検討する ・姫路地域における公開講座を検討する
	こども学科②							
・姫路キャンパスの地域での認知度向上 ・地域での子育て講座等による地域への発信							・西播磨コンソーシアムに教員を派遣し、保育や福祉業界とのつながりを構築した ・姫路キャンパスにおいて、こどもフェスタを実施したが、コロナ禍のため、地域の方を招待することはできなかった	
公開講座の内容見直し	R2	R3	R4	R5	R6	R7	・公開講座「パソコン講座」の内容の見直し、実施する ・保育、幼児教育の高等機関としての講座内容を検討し、開設する	・保育士養成校としての講座を検討する ・様々な世代が参加できる内容を検討する ・教員の専門性を活かした出前講座を検討する
	こども学科③							
・「パソコン講座」として、ワード、エクセルコースを開講しているが、受講生のパソコン習熟度の差、時代のニーズに合った内容の検討が必要 ・福祉・保育関係に役立つ講座が未開設							・コロナ禍において公開講座は、実施できなかった ・出前授業や高校生に興味を持ってもらえる内容の公開講座の検討は行ったが、コロナ禍のため実施できなかった	

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
OPACの機能の利用するために(現在オフライン)、蔵書の目録の遡及作業の継続及び解消のための方向性について	R2	R3	R4	R5	R6	蔵書の目録の遡及作業を継続する	・蔵書資料のオープン化に向け、遡及登録処理を継続する ・業務遂行に必要な組織構築を法人に引き続き依頼していく	
	図書館①							
現在登録されている蔵書データ(1冊ごとの書誌事項)の見直し							前年度に引き続き、書誌情報の遡及、請求記号の再設定、ラベル装備を継続実施した結果、2021年4月1日～2月17日現在で2,753件の資料につきデータの遡及入力、登録処理、ラベル付け替えなどを実施した	

○個別対策管理シート

I 基本方針

Ⅲ-1 地域の知的・実践的拠点として発信力向上

II 主要対策

1-2 自治体、企業等との連携強化

中長期計画		工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
		R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局									
現状の課題								令和2年度成果	令和3年度成果
地域の高齢者大学との連携強化		R2	R3	R4	R5	R6	R7	高齢者と学生が保育や福祉の学びの一端を共に経験し、学び合うことで、地域の異世代間交流の活性化を目指し、教育と研究成果が地域に還元されるよう取り組む	みてやま学園大学院との連携を継続しつつ、さらに充実した内容になるように協議を図る
		こども学科①							
・教育・研究活動の地域への還元 ・地域の福祉や保育の問題を異世代間で双方向的に学ぶ機会								コロナ禍で、みてやま学園大学院との交流事業や和花季広場での異世代間交流はかなわなかった	
実習先や就職先と情報共有を通じた保育者養成の連携強化		R2	R3	R4	R5	R6	R7	・卒業生の就職先に対して、就労状況等のアンケートを実施する ・実習先や就職先との懇談会の実施時期や実施回数、実施内容などを検討する	・姫路キャンパスにおいては、西播磨コンソーシアムとの連携を図り、播磨地区での就職先の開拓や実習先の確保を行う ・近隣の市町村との連携を強化していく
		こども学科②							
地域の福祉・保育業界との連携強化								・就職先との情報共有、卒業生からの情報提供により、100%の就職率を達成できた ・実習先との懇談会の実施内容や時期の検討は、今後も引き続き協議が必要であるが、実習訪問や就職先訪問により多くの情報は集めることができた	

○個別対策管理シート

I 基本方針

Ⅲ-2 グローバル人材の育成

II 主要対策

2-1 語学力の向上

中長期計画		工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
		R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局									
現状の課題								令和2年度成果	令和3年度成果
国際化する人材養成を行うため国語力・語学力の向上		R2	R3	R4	R5	R6	R7	・「英語コミュニケーション」授業の充実を図る ・福祉・保育現場での利用者の国際化に対応できるような実践的なコミュニケーション力をつけるため、国際交流事業などの充実を図る	日常的に国際社会に興味関心を持てるよう、特別研究の授業内に「保育×国際」のテーマを設定し、学生自身の興味を刺激するカリキュラムの導入を検討する
		こども学科①							
国際的な社会で対応できる語学力の向上								国際交流事業による国際社会への興味関心を持たせることができた	

○個別対策管理シート

I 基本方針

Ⅲ-2 グローバル人材の育成

II 主要対策

2-2 国際交流の推進・強化

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
国際社会に適応しうる感性の育成と異文化を理解しうる力の養成	R2	R3	R4	R5	R6	R7	「国際交流事業」等を実施し、異文化に触れる機会を設ける	学生が国際感覚を養える地域活動やボランティアなどの情報提供を促進する
	こども学科①							
国際社会に適応できるようなグローバルな視点を持ち、福祉や保育現場における多様性に対応できる高い教養を身につけた学生の育成							国際交流事業を実施し、学生の国際感覚を養うことが概ねできた	

○個別対策管理シート

I 基本方針

IV-1 効果的な広報活動による入学志願者の増加

II 主要対策

1-1 広報活動の質向上

中長期計画		工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
		R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局									
現状の課題								令和2年度成果	令和3年度成果
姫路キャンパスでの受験生の増加を図るため、 姫路大学との連携による編入制度の充実(併願 制度の検討・姫路キャンパスの特色づくり)								・姫路大学と広報を共にできる部門の連携を整理し、お互いの強みを活かせる体制を 作る ・高等学校の進路担当者に存在を知ってもらえるよう高校ガイダンスの件数を増やす	編入制度の周知方法を検討し、さらなる受験者の増加を目指す
入学センター①									
・姫路大学との併願制度・編入制度の在り方を検討 ・姫路近隣での姫路キャンパスの認知向上								・姫路大学との編入制度の導入により、延べ3名の編入制度の出願があった ・姫路キャンパスの認知度は徐々にではあるが浸透してきており、新規の高校からの出 願も増えた	
タイムリーな受験情報の提供・魅力発信できる広 報物(パンフ、チラシ、ポスター、ホームページ)・ インターネット出願のシステム構築								・パンフレットやその他の広報物についてコンペ方式を導入し、学内の各部署の意見 を反映した印刷物、ホームページを作成する ・インターネット出願の導入に向け、姫路大学と連携し、システムの在り方を検討する	・インターネット出願のシステムを構築する ・受験生専用サイトの拡充をする
入学センター②									
・広報戦略において積極的な情報提供 ・保育に興味をもてる情報発信 ・インターネット出願ができる環境整備								・コンペ方式で作成したパンフレットの検証を行い、カスタマイズした ・インターネット出願を検討したものの費用対効果の関係で、引き続き検討することとし た	

○個別対策管理シート

Ⅰ 基本方針

IV-1 効果的な広報活動による入学志願者の増加

Ⅱ 主要対策

1-2 入試制度 改革

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
入試のあり方の見直し (入試区分の呼称変更・入試実施時期の変更)	R2	R3					・入試実施方法の変更に関して本学教職員が正しく理解・説明できるように学内での研修会を実施する ・マニュアルを作成し、高等学校側に正しく情報を伝えるよう教員による訪問回数を増やし説明を行う ・ホームページやSNSによる入試情報の積極的な配信を行う	入試の在り方を継続的に検証する(実施時期、実施内容等)
	入学センター①							
・ホームページ等を活用した積極的な情報提供 ・学内関係者向けにも会議や研修を実施・入試区分の呼称変更により、受験者及び教職員に混乱が生じる可能性への対応							・コロナ禍において一斉の研修会等は実施できなかったが、回覧等でこまめに情報を共有した ・高等学校に訪問する機会、説明する内容を整理し、情報共有を図ったことで、これまで出願のなかった高校からの出願が増えた ・SNSの高校による資料請求が増えた	
学力の3つの要素を取り入れた入試方法の導入	R2	R3	R4				・学力の3つの要素を取り入れた入試内容を検討する ・総合型選抜の面接相談の在り方を見直し、さらなる改善案を模索する	・アドミッションポリシーに基づく、選抜方法の改定、それに伴う告知方法を見直す ・オープンキャンパスでの体験学習を活かした事前エントリーの方法などを引き続き検討し、確立する
	入学センター②							
・入試時期が秋以降に変更されオープンキャンパスの実施時期から受験までの間の期間への対応 ・これまでの面接相談に代わる形で、保育体験などのアクティブラーニングを取り入れた学びの機会							・学力の3要素を取り入れた、アドミッションポリシーの改定を検討した ・総合型選抜の試験方法の見直しを行い、事前エントリーの変更をすることが決定した ・オープンキャンパスでの体験学習を活かした事前エントリーの方法などを検討した	

○個別対策管理シート

Ⅰ 基本方針

IV-2 財政基盤の安定化とガバナンスの強化

Ⅱ 主要対策

2-1 収入増加と管理経費抑制

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
特別補助の獲得	R2	R3	R4	R5	R6	R7	・私立大学等経常費補助金説明会後、総務課による全学的な学内研修会を実施する ・共通の知識をもち、現状を改善し補助金を獲得できるよう教学部門とも連携して進めていく	コロナ禍のため、学内のオンライン研修会を検討し、特別補助を含めた経常費補助金の獲得に向け情報提供と体制整備に努める
	総務部①							
・全学的な情報共有 ・補助項目の精査							経常費補助金の増減に大きく関わる入学者数を含めた学生数の適正管理について、教学部門と数回にわたり協議し、共通認識を深めた	
貸館事業の実施	R2	R3	R4	R5	R6	R7	・「豊岡短期大学校舎等の学外貸与に関する細則」の見直しを行う ・学外へ向け貸館事業を周知する	コロナ禍のため、積極的な貸館事業は行えないが、ホームページを利用し、貸館事業を学外に対し周知する
	総務部②							
・本学行事実施による他部署との調整 ・学外貸与に関する細則に規定する料金体系の見直しの検討							・「豊岡短期大学校舎等の学外貸与に関する細則」の見直しを行った ・コロナ禍のため、積極的な貸館事業を行うことはできず、問い合わせが数件あったが、受け入れはできなかった	
日常的な消耗品等に対する経費削減意識の徹底的な浸透	R2	R3	R4	R5	R6	R7	・冗費削減の意識改革を実施する ・日常業務における消耗品等の経費の洗い出しを行う	日常的な特に消耗品等の経費削減に向け、全体の把握を行い、さらに強化した各部署への協力依頼を行う
	総務部③							
慣習となっている部分も多いため、意識の改革							冗費削減対策として、まず日常的な消耗品等の制約を設けた	

中長期計画		工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
		R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局									
現状の課題								令和2年度成果	令和3年度成果
学生サービスの向上		R2	R3	R4	R5	R6	通学部対象：窓口収納方法を模索する ・券売機導入を含めた収納システムを検討する ・姫路キャンパスとの連携を含めたシステム内容を検討する ・運用方法等を構築する ・導入コスト、ランニングコスト及び費用対効果を検討する	・収容定員に応じたコストパフォーマンスの高い収納方法(マルチペイメント等)がないか再検討する ・支出抑制による収入増加の観点から令和2年度に情報収入したインターネットバンキングの利用について、法人本部経理・財務課と共同して導入効果と事務量の抑制効果を整理し、導入検討にかかる工程表を作成する ・学生サービスによる付加価値向上による間接的な収入増加について具体策を再考し検討する	
		経理部①							
経理業務の効率を下げず、学生サービスを向上させ、付加価値を高める、間接的な収入増加策を模索								・券売機導入は、こども園券売機を複合的に利用する案と新規に購入する案を作成し検討したが、コロナ禍とコスト負担を鑑み導入は不可とした ・通学部の学費収納については、教務システム(AAA)の新規導入に伴い学費収納システムの導入を検討したが、コスト高と事務の負担増加により導入を不可とした ・学費の口座振替についてもモデルケースを作成して検討したが、地域の特性を鑑みたこと、また事務量もコストも増加が見込まれるため不可とした ・支出を抑制する観点からインターネットバンキングについても情報を収集した ・導入に係るメリットとデメリットと現在の事務処理との折り合いも含め検討し、コスト・事務量の軽減など支出抑制効果が一定程度あるのではないかと判断した	
豊岡キャンパス、姫路キャンパスにおいて実施される授業に関して、所属教員の移動の効率化		R2	R3	R4			2キャンパス制(2年目)の完成年度を迎え、実施に関する障害の有無の確認をする	・原則として所属キャンパスでないキャンパスでは、1限目には担当授業を設定しない ・所属キャンパス以外の担当授業は、連日設定又は日程間隔を空けて設定するなど、教員の希望も考慮する ・キャンパスの教員貼付の組み合わせは、変更ないが、時間割において移動等の負担を軽減する	
		教務学生部①							
・時間割の見直し ・教員貼り付けの見直し		・コロナ禍でのスタートとなり、兵庫県からの休業要請を受け、年度当初に計画した時間割を根底から再構築することとなった中で、一部の科目については、通信教育部の協力を得てカリキュラムを再編し、後期試験の結果で効果の判定が可能となった ・教員については、7名が姫路キャンパス所属に変更となった							
姫路大学入学センターと連携による費用抑制		R2	R3				・法人内で教職員が短大、姫路大学両方の広報ができるような情報共有の機会を持つ ・いくつかの高等学校には、合同で広報を行い、そのメリット、デメリットを検証する	・姫路大学と合同で広報をする場合、編入制度など、学生がわかりやすいリーフレットなどを検討する ・全体の広報研修などを検討する	
		入学センター①							
姫路大学との合同ガイダンスの未実施								・姫路大学入学センターと合同で一部の会場ガイダンス等のブースを出し、広報費用を抑制した ・同一ブースで実施するに向けた合同のパンフレット等の検討ができなかった	

○個別対策管理シート

I 基本方針

IV-2 財政基盤の安定化とガバナンスの強化

II 主要対策

2-2 組織改革と基幹人材育成

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
業務のマニュアル化	R2	R3	R4	R5	R6		業務の棚卸による業務内容、実施時期を可視化する	事務分掌ごとに年間・月間スケジュールを完成させ、それに基づき業務マニュアルを作成していく
	総務部①							
・各部局とも業務担当者の業務経験が浅い ・業務の属人化傾向							今年度は、事務分掌ごとに年間・月間スケジュールを作成する目途を立てた	
SD研修の推進							・現状の研修会開催状況の把握と各部局への更なる研修会実施を依頼する ・部局横断型の研修会を実施する	各部署内の研修会のみならず、部局横断型の研修会を充実させるため、SD委員会と協働して体制を整備する
総務部②								
・簡易的な業務のルーティンワークが、業務全体に占める割合が高く、専門的知識を要する業務への対応が不十分 ・専門的知識を習得するような機会が少ない							・各事務部署内での研修会を実施し、その結果はSD委員会にて集約した ・部局横断型の研修会の実施はできなかった	

このとり認定こども園

中 長 期 計 画

○個別対策管理シート

Ⅰ 基本戦略

Ⅰ-1 教育の付加価値向上

Ⅱ 主要対策

Ⅱ-1 教育力の向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
保育教諭の育成	R2	R3	R4	R5			・若手の園内研修の充実 ・自己点検後の面談実施によるモチベーションアップ ・全職員によるインクルーシブな教育保育の研究と実践	・保育教諭自己点検評価及び保護者アンケート評価の設問を再検討する ・保育教諭の面談を通し各々のモチベーションアップに努める ・園内研修の実施方法と内容を考察する ・全保育教諭が、インクルーシブ保育実践の研修及び実践の成果を発表する
	このとり認定こども園①							
・若手の離職問題 ・インクルーシブ教育保育の展開							・若手の園内研修及び園会議の発言や質問が無く研修の持ち方再検討した ・自己点検後の面談実施によりモチベーションアップへ繋げた ・全職員によるインクルーシブな教育保育に向けて試行錯誤しながら進め、各保育教諭が実践を通し力をつけた	
教育保育課程の見直し	R2	R3	R4	R5			・教育保育内容の理解と短大実習要望のすり合わせをする ・公開保育による教育保育の質の向上を模索する ・多様な研修、職員会に積極的に参加し実践を通して意見交換を行う	・教育保育の内容及び短大との意見を交換する ・教育保育課程の見直しを図る ・教育保育の動向を見据え、保育教諭の保育経験や年代を考慮した研修を実施する
	このとり認定こども園②							
・実習生の育成 ・日常の教育保育業務と実習業務の問題							・コロナ禍で短大とのすり合わせが出来なかった ・勤務体制上、全職員での研修が困難な状況あり、公開保育を行うことで教育・保育力の向上に繋げた ・コロナ禍で研修の形式が大きく変化し、全教職員によるリモート研修が習慣化した	

○個別対策管理シート

Ⅰ 基本戦略

Ⅰ-1 教育の付加価値向上

Ⅱ 主要対策

Ⅱ-2 教育効果の可視化

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
ICTの導入		R3	R4	R5	R6			・ICT導入に伴う100%補助の市があるため、豊岡市の方針を注視する ・コンプライアンスを遵守した教育保育を実践する
	このとり認定こども園①							
・教育保育の専務作業の見直し ・ICT導入補助金、経済産業省IT導入補助金に対応 ・コンプライアンス遵守								
公開保育の推進		R3	R4	R5	R6			・積極的に公開保育を行う ・当園の視察希望が年々増えており、対応できる力をつける ・短大教員に参加依頼し、教育保育についての意見や感想を収集する
	このとり認定こども園②							
地域の保育園、こども園、短大の教職員等との教育保育の展開の方法や意見をいただく場の設定								

○個別対策管理シート

Ⅰ 基本戦略

Ⅲ-1 地域の知的・実践的拠点として発信力向上

Ⅱ 主要対策

1-1 教育・研究の地域への発信

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
地域及び家庭の支援機関としてのアピール 向上と充実		R3	R4	R5	R6			・親子教室(そよ風)は、コロナ収束を見極めながら実施する ・一時保育は、コロナ予防に努めながら家庭支援、母親支援として進めていく ・ホームページの更新に努め、内容を充実する
	このとり認定こども園①							
・一時預かり(めばえ)は、年度による利用者数の増減が顕著 ・親子教室(そよ風)は、定員に対して申込者が多数 ・親子教室(そよ風)の保育内容やメニューの見直し ・短大教員の継続的な子育て支援講座の実施								

○個別対策管理シート

Ⅰ 基本戦略

Ⅲ-1 地域の知的・実践的拠点として発信力向上

Ⅱ 主要対策

1-2 自治体、企業等との連携強化

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
園庭開放の拡充	R2	R3	R4				・従来の七夕夏祭り・運動会・オープンスクール持ち方を再検討する ・子育て支援事業の充実と拡大を行うと共に利用しやすい方法を模索する	・コロナ感染状況を見極めながら実施を維持する ・気軽な利用と親子も楽しめ、親子が育つ場となるように計画を見直す ・保護者や地域の方々が子育てについて話がしやすい場所と時間を検討する
	このとり認定こども園①							
地元との交流強化を目的として、こども園に期待されている事項への対応							・コロナ禍で行事の見直し及び、行事の規模縮小、感染予防に努め、年齢や時間を考慮し実施した結果、保護者理解と協力もあり、好評だった ・子育て支援事業も中止にしていたが、コロナ禍でも行う必要性があり、9月より再開した	
研修会の拡充				R5	R6	R7		
	このとり認定こども園②							
・但馬内の保育園こども園が参加できる研修の会場提供 ・短大教員との研修会、勉強会発足								

○個別対策管理シート

Ⅰ 基本戦略

Ⅲ-2 グローバル人材の育成

Ⅱ 主要対策

2-1 語学力の向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
バイリンガル教育の効果公表		R3	R4	R5				
	このとり認定こども園①							
・園教職員の英語力向上 ・日本語の語彙力低下								
外国出身者による国際交流を通じた語学力の向上	R2	R3	R4	R5			・外国人教諭による英語教育カリキュラム・指導方法の明確化を図る	3月末の評価反省をもとに英語教育のカリキュラム作成、各クラス担任との調整及び方向性を明確にする
	このとり認定こども園②							
バイリンガル教育の実践記録の公表							・3月末に1年間の英語教育を評価・反省した ・常勤英語教諭、非常勤英語講師との方向性と内容をすり合わせた	

○個別対策管理シート

Ⅰ 基本戦略

Ⅲ-2 グローバル人材の育成

Ⅱ 主要対策

2-2 国際交流の推進・強化

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
園児保護者及びバイリンガル教諭による文化紹介交流を通した国際交流の推進	R2	R3	R4	R5	R6	R7	・外国人保護者や英語教諭による文化、生活習慣の紹介等により他国への興味関心	外国人保護者や英語教諭による文化、生活習慣、遊び等の紹介により他国への興味関心を高める
	このとり認定こども園②							
文化交流・国際交流の機会増加							・外国人保護者との文化交流は、コロナ禍と保護者の体調不良により実現しなかった ・3月末に英語教諭による文化交流及び国際交流研修を教職員対象で実施した	

○個別対策管理シート

Ⅰ 基本戦略

Ⅳ-2 財政基盤の安定化とガバナンスの強化

Ⅱ 主要対策

2-1 収入増加と管理経費抑制

中長期計画	工程表						令和2年度計画	令和3年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題							令和2年度成果	令和3年度成果
通園バスの運営方法見直し			R4	R5	R6	R7		
	このとり認定こども園①							
・年々少子化傾向が続きバス乗車人数の減少傾向 ・通園バスの意義や地域親支援から見る貢献度の高さ ・利用保護者の意見把握 ・バス通園に憧れ、入園した子や期待をしている子の存在								
園内関係職員の業務の仕分けと配分見直し	R2	R3	R4				・清掃業者の業務内容を明確化すること及び必要時間を検討 ・仕事内容に応じた処遇改善費の配分によりモチベーションを向上	・収入増加・管理経費抑制を全教職員に投げかけ、理解と協力体制を構築する ・乳児の定員を見直す ・定員見直しに伴い保育教諭を確保する ・国の行っている処遇改善Ⅰ・処遇改善Ⅱを適用し、教職員の処遇改善によるモチベーションアップを図る
	このとり認定こども園②							
・処遇改善費のモチベーション向上への連動 ・清掃業者への業務分担の明確化							・清掃業者の業務内容を洗い出し、必要時間を明確にした ・清掃業者による業務削減できる曜日を総務部へ提案した ・令和3年度より業務削減が見込まれる	